

【主な出来事】

- キク首相が辞任。次の首相が選出されるまでの暫定首相にチョコイ外務・欧州統合相が就任。
- サンドゥ新大統領の大統領就任式が開催された。ドドン前大統領は社会党党首に復帰。
- サンドゥ大統領の就任後最初の外国要人としてヨハニス・ルーマニア大統領がモルドバを訪問。

1. 内政

▼農民による反政府デモ

・16日、農民数百人が議会前広場において反政府デモを行い、警官隊ともみ合いとなった。数日前より首相府前にて抗議活動が続いていた農民数百人は、100台余りのトラクターに分乗して議会前広場に移動した。議会前広場に集まった農民らは、農産品への付加価値税引上げ（8%から12%へ）を想定した2021年度予算案の採択に強く反対する旨主張しつつ、キク内閣の退陣、議会解散、議会早期選挙の開催を求めた。

▼野党による内閣不信任案の提出

・16日、「行動と連帯」党(PAS)、「尊厳と真実」党(DA)及び民主党の議員(34名が署名)はキク内閣に対する内閣不信任案を議会に提出した。グロス議員(PAS)は、提案理由として、新型コロナウイルス対策の失敗及び関連の経済政策の失敗を挙げた。

▼与党、予算関連法案を議会で強行採決

・16日夜22時に再開された議会本会議において、2021年度予算案及び同関連法案の第二読会が行われ、投票の結果賛成多数(賛成56票)で採択された。議論は一切行われず、野党議員は夜10時を回って再開された議会本会議に招集を求められることさえなかったとして憤慨した。

・グレチャヌ議会議長は、通常会期は閉会される旨宣言しつつ、内閣不信任案の審議のために数日のうちに特別会期が招集される旨述べた。

・サンドゥ次期大統領は、「恥ずべき行為である。」として与党の対応を厳しく非難するとともに、改めて議会解散と早期議会選挙の実施を求めた。

・21日、ドドン大統領は、2021年度の予算関連法の公布書に署名した。

▼キク首相の辞任

・23日、キク首相は急遽記者会見を行う旨発表し、ドドン大統領及びグレチャヌ議会議長の同席の下での記者会見において首相を辞任する旨表明した。キク首相は、このステップは現在の議会を解散させることを目的とするものであると説明した。キク首相は、自らの辞職の前にあらゆる決定を行い、法案審議を終えることに意を用いたと述べつつ、議会解散を可能とする方法の一つが内閣総辞職であるとした。

▼ドドン前大統領、社会党党首に選出

・30日、社会党は第17回党大会を行い、ドドン前大統領を新党首に選出した。

▼チョコイ外務・欧州統合相が暫定首相に就任

・31日、サンドゥ大統領は、辞意を表明したキク首相に代えてチョコイ外務・欧州統合相を暫定首相として任命した。サンドゥ大統領は、キク首相が暫定首相として職務を遂行することを拒絶したことを踏まえ、憲法上大統領が閣僚の中から暫定首相を任命することとなっているとして、チョコイ外務・欧州統合相を暫定首相に任命した旨説明した。

・チョコイ外務・欧州統合相は、次の内閣が発足するまでの間、暫定首相として職務を遂行することとなる(外務・欧州統合相兼務)。

・また、キク首相とともにプシュクツァ財務相、ウサトウイ経済・インフラ相及びドゥンブラバヌ保健・労働・社会保障相が辞任し、それぞれイワニチキナ(Ms. Tatiana IVANICICHINA)財務省次官、ルパシク(Mr. Mihail LUPASCU)経済・インフラ省次官、ザトゥク(Ms. Tatiana ZATIC)保健・労働・社会保障省次官がそれぞれ大臣代理として指名された。

大統領

▼新大統領就任式の開催

・24日、サンドゥ新大統領の大統領就任式が共和国宮殿で開催された。同就任式には、全ての議員が招待されたが、グレチャヌ議会議長及びキク首相は出席したものの、他の社会党議員、ドドン前大統領は欠席した。

▼サンドゥ大統領と各党との協議

・28日、サンドゥ大統領は、早期議会選挙について議会各党との協議を開始した。

新型コロナウイルス

・12月末時点の新型コロナウイルス国内感染者数は計144,818名となった。死者は2985人。

2. 外政

▼チョコイ外務・欧州統合相、英国、ベラルーシ、ギリシャ、独と電話会談

・16日、チョコイ外務・欧州統合相は、英国のモートン欧州担当国務大臣と電話会談を行った。両大臣は、英国のEU離脱を踏まえた二国間協定の案文交渉が成功裏に終結したことを歓迎した。

・17日、チョコイ外務・欧州統合相は、マケイ・ベラルーシ外相と電話会談を行い、二国間関係、地域情勢などについて意見を交わした。

・また、18日にはデンディアス・ギンジャ外相、独のロス欧州担当大臣とそれぞれ電話会談を行った。

▼英国との戦略的パートナーシップ・貿易・協力協定に署名

・24日、チョコイ外務・欧州統合相及びフィッシャー駐モルドバ英国大使は、モルドバ・英国間の戦略的パートナーシップ・貿易・協力協定に署名した。

▼ドドン前大統領、ロシアを訪問

・25日、ドドン前大統領は、グレチャヌ議会議長、チェバン・キシニョフ市長らとともにモスクワを訪問し、コザク大統領府副長官と会談した。モルドバ側からは、保健システムや農民に対する露の支援に謝意を表した。

▼ルーマニア大統領のモルドバ訪問

・29日、ヨハニス・ルーマニア大統領が当地を訪問し、サンドゥ大統領と会談を行った。首脳会談において採択された共同宣言では、言語、文化、歴史及びモルドバの欧州統合に向けた戦略的パートナーシップに基づく両国の特別な関係が強調された。

・ヨハニス・ルーマニア大統領は、新たな対モルドバ支援パッケージとして、以下を発表した。

- ー総額1億ユーロの無償資金協力に関する第6議定書の早急な締結(実施期間の延長、実施分野の拡大等)
- ー新型コロナウイルス・ワクチン20万本の供与、ワクチン接種にかかる経験の共有、専門家の派遣
- ー農民に対する支援としての6000トンの軽油提供

3. 経済

▼10月の工業生産

・21日、国家統計局は、2020年10月の工業生産が前年同月比7.7%減と報告した。加工業の9.7%減、鉱業13.3%増、エネルギー・ガス・温水・空調15.9%増等。

▼世銀による経済報告の発表

・23日、世銀はモルドバに関する経済報告を発表した。
・経済は、家計消費の減少、深刻な干ばつ、ロックダウンによる貿易及び工業生産の停止などの影響を受けて減退していると評価。一方で、大幅な輸入減少のため、経常収支赤字は改善しているとした。また、2020年上半期は、エネルギー価格の下落と内需の低迷により、輸入が前年同期比16.4%減少、輸出は7.4%減、海外送金

は4%減となったと報告。9月には対外債務はGDPの約65%に達し、前年同月比3%増加した。外貨準備は35億ドルで高水準。2020年のGDPは7.2%減、2021年に3.8%増と予測した。

▼11月末の政府債務

・24日、2020年11月末、政府債務は660億レイ(38.32億ドル、対GDP32.8%)と発表された。国内債務は291億レイ(16.89億ドル)、海外債務は369億レイ(21.42億ドル)。

▼11月の海外送金

・24日、国立銀行は、2020年11月の海外からの送金が131.9百万ドル、前年同月比30%増になった旨を発表した。

・送金の多い順に、イスラエル(23.4百万ドル)、イタリア(16.9百万ドル)、ドイツ(15.4百万ドル)、ロシア(15.4百万ドル)。送金の49.2%はEUから、12.8%はCISから。

▼2020年財政赤字約6億ドル

・31日、財務省は2020年の歳入が621億レイ(36.06億ドル)に達したと報告した。歳出は731億レイ(42.45億ドル)に達し、財政赤字は110億レイ(6.38億ドル)。

経済協力

▼世銀による上下水道整備プロジェクト

・18日、農業・地域開発・環境省及び世銀専門家は、カフル、ルシュカニ、ソロカ、ガガウズ自治区における上下水道の新プロジェクトについて協議した。同プロジェクトの実施で、少なくとも4万人が給水サービスを利用可能となり、国際開発協会(IDA)及び世銀は2021~26年の間に50百万ドルを融資する。

▼EIB、中小企業支援に20百万ユーロ融資

・22日、EIBはモルドバのProcreditGroupに20百万ユーロの融資を行う旨を発表した。同融資は、モルドバの中小企業への貸し付けに利用される。コロナに対応するためのEUの東欧経済回復支援の一環として実施される。

4. 対日関係

▼1億円の医療機材供与プロジェクト

・22日、チョコイ外務・欧州統合相と片山大使は、総額1億円(約80万ユーロ)の経済社会開発プログラムの枠組みにおける医療機器の無償供与に関する交換公文に署名を行った。

(了)